特定非営利活動法人　日本免疫学会

平成 26 年後期　Tadamitsu Kishimoto International Travel Award

研究発表報告書

申請者氏名	松田　剛典	会員番号	0033236
申請者の所属・職名	国立長寿医療研究センター研究所、流動研究員		
出席会議名	The 2015 Ageing Summit		
発表論文タイトル	Immunosenescence-related gene Zizimin2 is associated with splenic marginal zone B cell localization.		

実施結果：２月１１日（祝）に、The 2015 Ageing Summit において成果発表（口頭）を行った。その際には、「何故、加齢に伴って免疫組織内における Zizimin2 (Ziz2)の発現量が低下するのか？」や、「骨髄における Ziz2 の具体的な機能は何か？」等の質問が寄せられた。

今回は、上記学会の開催期間の前後において、当該分野で世界的に著名な Leipniz Institute for Age Research の Dr. Karl Lenhard Rudolph や University College London の Prof. David Gems、さらに、Ludwig Maximilian University of Munich の Dr. Annette Mueller-Taubenberger 等と当該研究成果に関する議論も行った。以下にその詳細を示す。

２月９日（月）に Dr. Rudolph への発表を実施した。その後の議論で、T 細胞の形成や骨髄Ｂ細胞における Zizimin2(Ziz2)の機能に関する質問が寄せられた。骨髄Ｂ細胞における Ziz2 の機能に関しては実験を行っていなかったので、今後の課題となった。

２月１３日（金）には Prof. Gems への発表を実施した。発表後には、高齢マウス由来 NK 細胞で Ziz2 が上昇している理由に関して質問が寄せられた。また、Ziz2 の Transgenic マウスを高齢化させた場合に、免疫老化しないかどうかを確認する実験が提案された。さらに、「ヒトリンパ球において、若齢群と高齢群で Ziz2 の発現量(mRNA)に差があるのか？」という質問も寄せられた。彼らと議論を行った際には、Ziz2 が PI3K の近傍にあるという背景から、血清や Cytokine（または IGF1 シグナル）で細胞を刺激した際の急速な応答に Ziz2 が関与しているのではないか、という意見が寄せられた。

最後に、２月１６日（月）には、Prof. Mueller-Taubenberger への発表を実施した。以下、発表後に彼等から頂いたコメントをまとめる。まず、Ziz2KO（遺伝子欠失）の好中球でタイムラプス動画を撮影すると興味深いデータとなるだろうという助言を得た。また、同様に、Ziz2KO の好中球のマイグレーション活性をより詳しく調べてもよいというコメントも頂いた。好中球が炎症と関連するという背景より、炎症を惹起する試薬を Ziz2KO マウスに投与して、炎症症状が KO マウスで変化するかを確認してもよいという意見を頂いた。

今回の発表・議論の機会を通じて、我々が行っている研究に対して、様々な視点から助言や意見を頂けた事は、今後の研究方針を検討する上で大変貴重な経験となった。

注）本報告書は手書きでなく、ワープロを使用して作成して下さい。